



学校だより

校庭のモミジバフウ（アメリカ楓）の葉もすっかり落ち、日ごとに寒さも増してきました。10人の子どもたちは、2学期80日間を『みんな仲よく、やる気いっぱい、元気いっぱい』過ごすことができました。今週末からは、子どもたちが待ちに待っていた冬休みです。

2学期を振り返ってみますと、夏休み明けの運動会の練習から始まり、いきいき交流スクール、修学旅行、社会見学、陸上記録会、観劇会、学芸会、秋の大祭、小中合同駅伝大会・・・とたくさんの学校教育活動を実施してきました。

これらの活動を通して、子どもたちは心に貴重な財産を増やし、仲間意識を高め、心身共に大きく成長してきました。地域の中の学校として、地域に根ざした特色ある学校づくりを推進することができました。保護者や地域の皆様方の温かいご理解とご協力のお陰だと感謝しております。

これからも、子どもたちに「生きる力」をつけ、学校教育目標である「心豊かにたくましく生きる子ども（白石っ子）の育成」を目指し、全職員が子どもたちと共に力を合わせて取り組んでまいりたいと思います。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



小中合同駅伝大会

昨年度から始めた「小中合同駅伝大会」。昨年度よりも児童生徒数が4人減り、1チーム6人で、3チームに分かれてたすきをつなぎました。2～4年生は1.5km、5・6年生は2.5km、中学生は女子が3km、男子が

3.5kmを走りました。11月下旬から、子どもたちはこの日に向けて、休み時間の練習に取り組んできました。

当日は、コースで多くの保護者や地域の方々から声援を送っていただきました。子どもたちは、皆様の声援に応えようと、そして、チームのたすきを次の走者に少しでも早く渡そうと、カー杯走り抜くことができました。

チーム全体のタイムもですが、一人一人のタイムも、練習の時や去年の駅伝大会のタイムからの伸びを確認して、頑張っ走り抜いた成果をしっかりと確認することができました。



学芸会 ~10人は輝くスターだ 燃え上がれ~

2学期の大きな行事の一つ「学芸会」。今年は、人数が減ったこともあり、全校での取り組みを増やしました。多くの学校で、縦のつながりが希薄になっていることが問題視されていますが、全校での取り組みを増やしたことで、子どもたちの協力する心、お互いを思いやる心が以前にも増して強くなっていると感じています。

保護者や地域の皆様に見ていただこうと、やる気いっぱい練習に取り組んできた子どもたちです。多くの方々にご来校いただき、惜しみない拍手に、頑張ってきたことの手応えをしっかりと感じたことと思います。

先週の山陽新聞に、学芸会に来て下さった地域の方の記事が掲載されました。このように思って子どもたちを応援して下さっていることを、子どもたちも、私たち教職員も大変うれしくありがたく思います。これからも、皆様の応援に応えられるように、頑張っていきたいと思ひます。



泉 **元気もらった学芸会** 石井 厚子 66歳 笠岡市白石島

地域の小学校の学芸会を見に行った。今年の児童数は10人。年々少なくなつて、ちよつときみしいけれど、子どもたちは元気いっぱい古典の朗唱や歌声、合奏を披露してくれた。

劇の題目は「ふしぎなガチョウ」。登場人物が大勢必要なため、子どもたちは人気があつた早稲わらで、1人何役もこなしていた。セリフ、動作ともに堂々としている。その生き生きとした姿に、見る方も自然に手拍子をしたり、笑ったりしながら、ストーリーに引き込まれていった。

4月からの学習や行事の「コマをスクリーンに映し出して、「1句ひねりまし」とその時の感想を五七五で伝えるコーナーは、日頃学校に縁のない私でも、学習の様子を知ることができて楽しかった。

先生方の指導や援助がしっかり行き届いているから、一人一人の子もたちが自信を持ってのびのびと活動している。チームワークもすばらしい。これが小さな学校の一番いいところだあと、あらためて感動した。

帰宅後、ルンルン気分です。向かう自分に気がついた。生きるエネルギーをいっぱいもらったらしい。ありがとう、子どもたち。

仲よし遊び

人権週間の取り組みの一つとして、昼休みに中学生のお兄さん、お姉さんと一緒に遊びました。小学生10名、中学生7名、それに教員も加わって、おにごっことならびっこベースボールをしました。

同じ敷地内に学校があるからこそできる小中学校の交流です。いつもの小学生だけで遊んでいる時と違って、中学生のお兄さん、お姉さんに、全力で向かって行く小学生と、小学生相手に気遣いながら遊んでいる中学生、そして、どの子の表情にも笑顔があふれ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

